

Cグループ グループワーク

1. 事例

局所麻酔下の手術中、痛みを訴えるCさん。

2. 気になるところ・もやもやしたところ

- バイタルサインの変動は？
- 鎮痛剤だけでなく鎮静剤使用は検討しなかった？
- アウェイクの手術で声を荒げていた
- 外回り1人だった？何人かいたら連携できた
- 麻酔科医師と看護師への対応が違う
- 外部（麻酔科など）に声をかけたのはよかった
- 苦痛を除く対応をしていなかった

3. 「登場人物の気持ちの推量」（推量：相手の心中をおしはかること）

患者	家族
<ul style="list-style-type: none">• 手術を受けることに対する緊張• 痛みを我慢している（我慢強い）。言えない• 周囲に気を配っている• 痛み止めが効かない。順調に進んでいるのか• 痛みを耐えるのが限界、動いてしまうのは仕方ない	
看護師	医師
<ul style="list-style-type: none">• 提案しているのになぜ薬を使ってくれないのか• 患者に我慢させてしまって申し訳ない• 患者、医師、看護師によって時間の感覚が違う。具体的な時間を知りたい• 医師に余裕がない• 1人だけでは対応が難しい• 安全、安楽に行ってあげたい	<ul style="list-style-type: none">• 何回も麻酔を追加しているし、時間もかかって焦っている• 思い通りにならない• 集中できない• いろいろな人を呼ばないで欲しい• 違う痛みなのではないか？

4. 倫理的問題と課題

倫理的問題	その問題に対しどう行動すればよかったか
<p>【自律の尊重】 医師の痛みに対する対処、価値の違い</p> <p>【善行・無危害】 痛みがとれていない</p> <p>【正義】 具体的に患者に伝えていない</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 患者の立場になって声掛けを具体的に 行う（特に医師） • すぐに薬剤投与をすべきであった • 患者はどうしたいか聞く • 具体的な声掛けを行う

【講師からの講評】

- ▶患者さんにとって安全に痛みがなく手術が終わることが大切
- ▶かける言葉によって、医療者の態度で患者を安心させることができたのではないか
- ▶ケアの倫理→看護師としてどのように接するべきか
普段からの医師の対応を把握しておく。医師との価値観の違いはあっても、患者を守るために「私たちはこんなことで困っています」と伝えていく
- ▶無害の法則→害となることを回避する
痛みをとってあげたい・・・痛み増強の要因は？
 - 体位が影響している？
 - 精神的なもの？
 - 手術室という環境が影響している？ など
 痛みを軽減できるよう「タッチング」や「声かけ」なども取り入れながら安心できるように対応していく

【グループワークを通して】

Cグループの皆さん、グループワークお疲れ様でした。施設は異なっても、同じような事例を経験されており、普段のモヤモヤを共有することができました。患者さんが安全・安楽に手術が受けられるように、そして、患者さんにとって何が利益となるのか判断するためには、患者さんをよく理解することが大切であることを改めて感じたグループワークでした。

倫理カンファレンスは初めての方もいらっしゃいましたが、グループメンバー全員がそれぞれに感じたことを発言されていて、とても有意義なディスカッションになりました。自分にはない視点、考え方の癖も発見でき勉強になりました。今回の勉強会の学びをそれぞれの施設で実践に活かしていきましょう。ありがとうございました！ 担当：永井真澄